

園だより

第 10 号 平成 28 年 1 2 月 2 1 日



育ち合う

園長 馬見 雅子

“育ち合う”は、ばんけい幼稚園の年間指導計画のテーマです。一人で育つのではなく、友達と関わり影響し合い一緒に育っていくという意味合いがあります。

2 学期は、それぞれの年齢で友達との関わりが大きく育つ時期です。また、運動会・山の子まつりパート 2 などの行事で、クラスの友達と一緒に一つのことに気持ちを合わせたり、みんなで作り上げたりする過程で大きな成長が見られました。

先日赤組でお弁当を一緒に食べた時の事です。恥ずかしがり屋の A ちゃんに「A ちゃんのデザートみかん？」と敢えて話しかけました。こくと頷く A ちゃん。その時隣にいた B ちゃんが、「この子は恥ずかしいの。だからお話ししないの。この子ね、お絵かき上手なの。」と教えてくれました。入園して 8 か月の年少さんが、もうこんなに友達のことを分かっている、友達の良さも分かっている、そのことに感動し嬉しくなりました。

緑組と青組の異年齢クラスでも、「C ちゃんは走るのが速いよ」「D ちゃんは今はまだできないけど青組になったらできるようになるよ」といった友達の良さを認めたり、年下の子をゆったりと見たりする姿が見られます。言葉にはならなくとも年長組の姿を見て“ああんりたい”“自分もやってみたい”と自らやる気を燃やす年中組の姿も見られます。

楽しく遊ぶことはもちろん大切ですが、喧嘩をしたり嫌な思いをさせたりさせられてしまったりすることも同様に大切な経験です。喧嘩をすることで自分の思いを伝える大事さ、相手にも思いがあることを知ります。相手に嫌な思いや悲しい思いをさせたことに気づいたり、自分が嫌な思いや悲しい思いをすることで人の痛みが分かったり、どうすればいいのかを一緒に考えることができます。それらは経験しなければ本当には分からないものです。園で起こる友達との関わりでは、無駄なことは一つもないと思います。そしてそれらは全て相手(友達)がいるからこそできる経験です。子ども達一人ひとりが大切な存在で、大切な友達です。

そしてその一つひとつの経験を大切なものにしていくには大人の関わりや見守りも必要です。善いこと悪いこと・ルールやマナーを伝える大切な機会になり、それぞれの思いを受け止めどうしたらいいのかを一緒に考えていくことで人との関わり方を学んでいけるのだと思います。

友達と関わる様々な経験を通してみんなで一緒に育ち合っていくのだということ、そしてたくさんの経験を経て、人と関わることを楽しむ人になって欲しいという思いを教師も親も持っていたいものです。